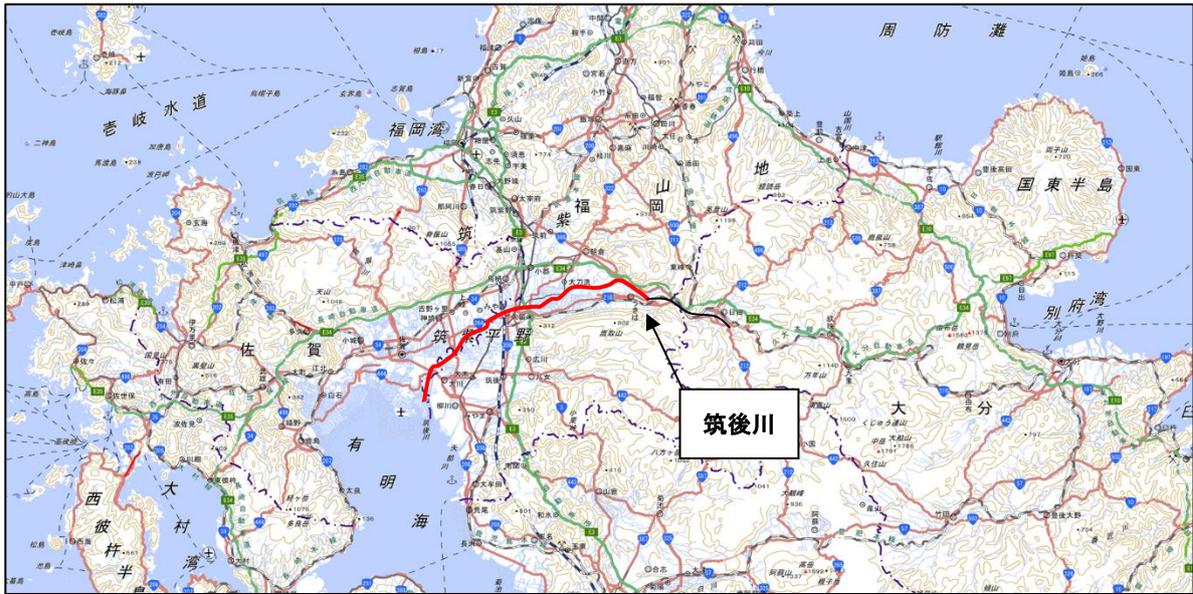


年号：2017年

月日：6月7日～7月27日

災害名：平成29年7月九州北部豪雨の概要

筑後川位置図



出典：国土地理院

【平成 29 年 7 月九州北部豪雨の概要】

- ・平成 29 年 7 月の九州北部一帯を襲った豪雨は、九州一帯に大きな被害をもたらした。
- ・筑後川水系筑後川では、片ノ瀬水位観測所、花月水位観測所、上曾木水位観測所、下唐原水位観測所ではそれぞれ既往最高水位を観測した。
- ・筑後川流域では 7 月 11 日～14 日の 4 日間の期間降水量が 500mm を超える記録的な降雨を観測し、14 地点の雨量観測所において 1 時間雨量が 80mm を超えた。
- ・この大雨は 6 月 7 日～7 月 27 日まで続き、福岡県では死者 37 名、行方不明者 2 名、大分県では死者 3 名の被害に加え、多大な建物被害を出した。

▼平成 29 年九州北部豪雨による筑後川水系の被災状況

床上浸水	282 戸
床下浸水	567 戸
浸水面積	1646.3ha

【平成 29 年 7 月九州北部豪雨の被害状況】



▲桂川浸水状況



▲北川被災状況



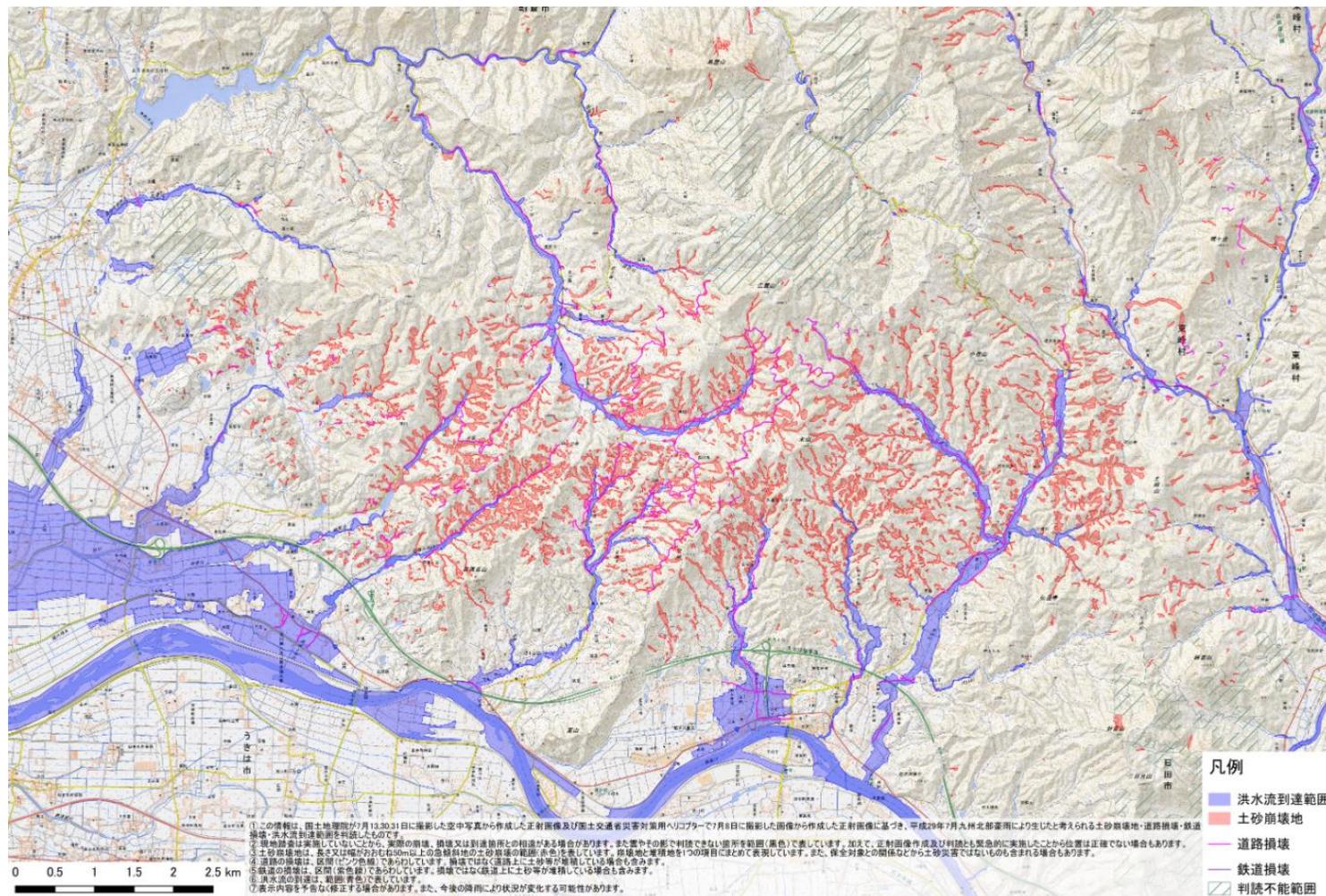
▲赤谷川被災状況



▲大肥川被災状況

出典：筑後川水系河川整備計画（平成 30 年度 3 月）[国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所]

▼平成 29 年 7 月九州北部豪雨の筑後川水系被害状況



出典：「平成 29 年 7 月九州北部豪雨に関する情報」（国土地理院）

▼筑後川水系既往洪水の概要

洪水発生年		原因	瀬の下地点 水位	洪水被害の概要
明治18年6月	1885年	梅雨	2丈5尺5寸 (7.72m)	国直轄工事として統一した改修計画（第1期改修計画）策定の契機となった洪水
明治22年7月	1889年	梅雨	2丈8尺4寸5分 (8.62m)	死者日田18人、久留米52人、家屋被害日田8,460戸、久留米48,908戸 第2期改修の必要性を痛感せしめた洪水（筑後川3大洪水）
大正3年6月	1914年	梅雨	6.29m	家屋被害5,130戸（中下流） 降雨量で既往の洪水を大きく上回った洪水
大正10年6月	1921年	梅雨	7.11m	家屋被害11,620戸（中下流） 第3期改修の契機となった洪水（筑後川3大洪水）
昭和3年6月	1928年	梅雨	6.29m	家屋被害14,434戸（中下流） 4大捷水路の開削が促進される契機となった洪水
昭和10年6月	1935年	梅雨	7.15m	家屋被害30,858戸（中下流） 中下流型降雨により支川改修着手の契機となった洪水
昭和16年6月	1941年	梅雨	6.53m	家屋被害4,235戸（中下流）
昭和28年6月	1953年	梅雨	9.02m	死者147人、流出全半壊12,801戸、床上浸水49,201戸、床下浸水46,323戸 破堤等122箇所、被災者数54万人 現在の治水計画の目標となっている洪水（筑後川3大洪水）
昭和47年7月	1972年	梅雨	5.17m	床上浸水142戸、床下浸水4,699戸
昭和54年6月	1979年	梅雨	6.44m	床上浸水71戸、床下浸水1,355戸
昭和55年8月	1980年	秋雨	5.46m	床上浸水713戸、床下浸水7,395戸 下流域の内水被害が甚大で、佐賀江川で激特事業が採択
昭和57年7月	1982年	梅雨	6.08m	床上浸水244戸、床下浸水3,668戸
昭和60年6月	1985年	梅雨	5.10m	床上浸水61戸、床下浸水1,735戸
昭和60年8月	1985年	台風	—	床上浸水487戸、床下浸水1,517戸 （花宗地区床上140戸、床下324戸 寺井地区床上14戸、床下49戸） 台風13号と満潮が重なり下流域で大規模な高潮被害が発生
平成2年7月	1990年	梅雨	5.48m	床上浸水937戸、床下浸水12,375戸 下流域の内水被害が甚大で、佐賀江川で激特事業が採択
平成3年9月	1991年	台風	—	風倒木面積19,000ha、風倒木本数1,500万本（夜明上流域） 台風17、19号による記録的な烈風により上流山地部で大量の 風倒木が発生
平成5年9月	1993年	台風	4.56m	床上浸水156戸、床下浸水135戸 玖珠川で大きな洪水を記録
平成13年7月	2001年	梅雨	3.84m	床上浸水23戸、床下浸水180戸 花月川支川有田川、寒水川で氾濫
平成24年7月	2012年	梅雨	6.54m	床上浸水162戸、床下浸水442戸 花月川、隈ノ上川、巨瀬川で氾濫し、花月川で激特事業が採択
平成29年7月	2017年	梅雨	5.66m	床上浸水282戸、床下浸水567戸（速報値） 花月川や中流右岸支川（赤谷川等）で大きな洪水を記録

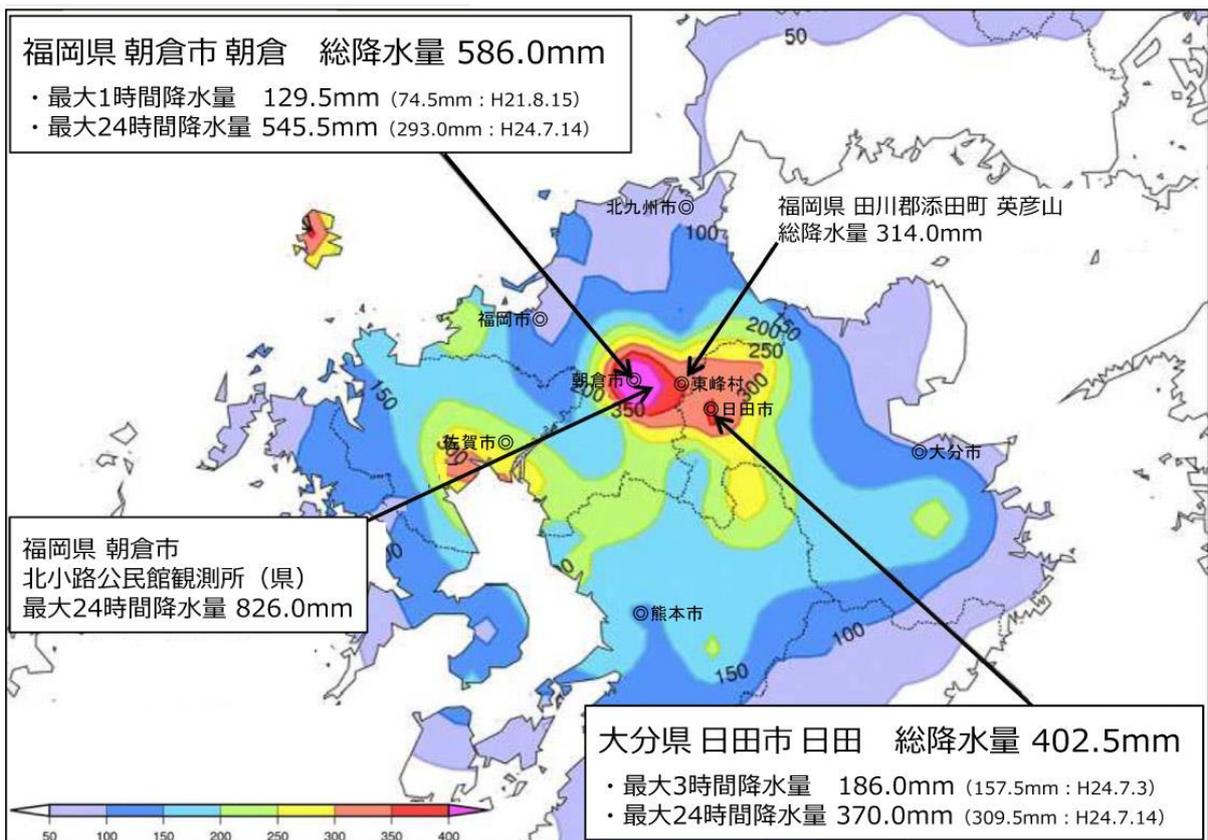
出典：筑後川水系河川整備計画（平成30年度3月）[国土交通省 九州地方整備局 筑後川河川事務所]

平成29年7月九州北部豪雨災害の概要

- 平成29年7月5日、昼頃から夜にかけて、九州北部で局地的に非常に激しい雨が降り、福岡県朝倉市、東峰村、大分県日田市をはじめとする各地で甚大な被害が発生した。後に気象庁が「平成29年7月九州北部豪雨」と命名した。
- 同地域では、5年前にも「平成24年7月九州北部豪雨」による大雨で甚大な被害を受けている。以下に、「平成29年7月九州北部豪雨」の概要を整理した。

【平成29年7月九州北部豪雨の概要】

- 2017年（平成29年）7月5日（水）～7月6日（木）にかけて、九州北部を中心に記録的な豪雨となり、死者数39人、行方不明者数2人の豪雨災害が発生した。
- 年間降水量が2,000mmのところ、福岡県朝倉市で24時間の雨量が約1,000mm、大分県日田市で約600mmと観測史上最大の豪雨となり、福岡県・大分県に九州地方では初めての大雨特別警報が発表された。



▲災害発生箇所図

出典：国土交通省・気象庁

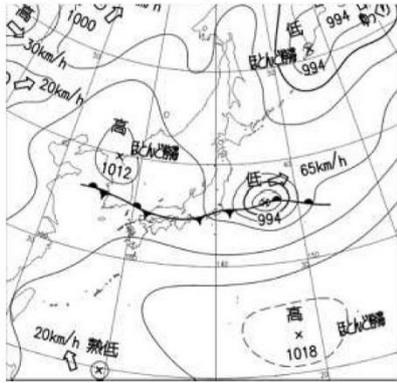
●天気図・衛星画像・解析雨量

天気図

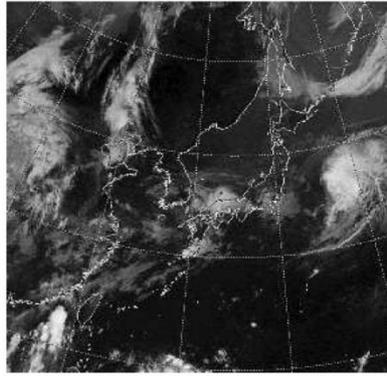
衛星赤外画像

日降水量（解析雨量※）

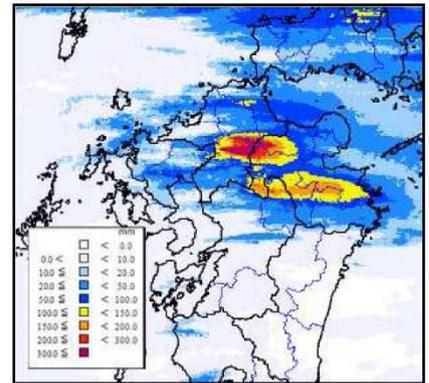
7月5日 09時



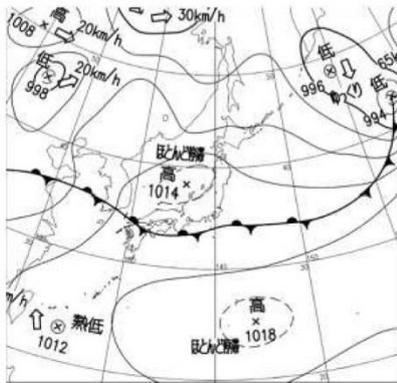
7月5日 09時



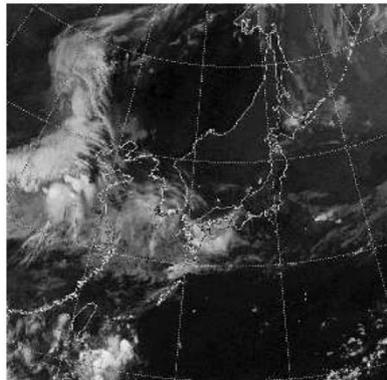
7月5日



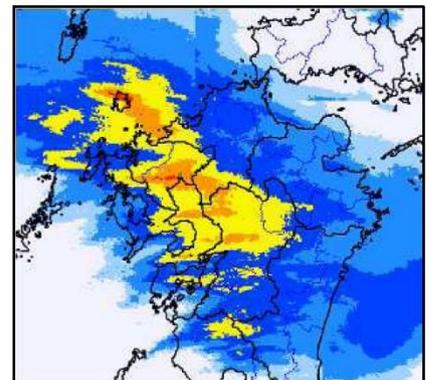
7月6日 09時



7月6日 09時



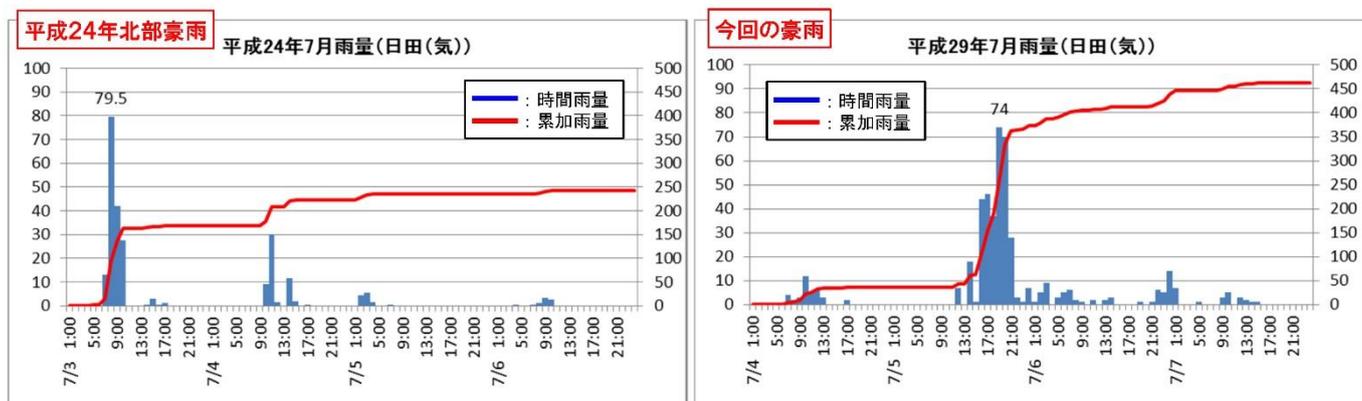
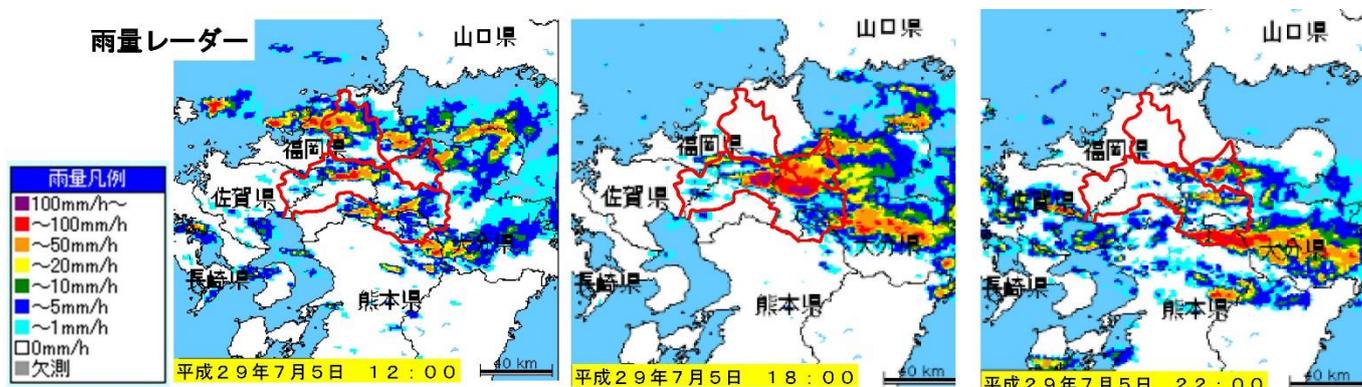
7月6日



※解析雨量とは、気象レーダーと、アメダス等の雨量計を組み合わせ、雨量分布を1km四方の細かさで解析したもの。

出典：気象庁

- ・日田雨量観測所では、日降水量336mmを記録し、平成24年九州北部豪雨時と比較すると、累加雨量は約2倍であった。



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

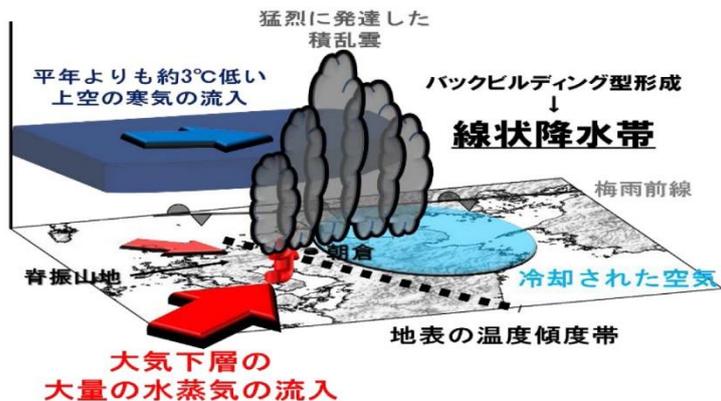
出典：国土交通省・気象庁

■降水量と大気の比較

	平成29年7月九州北部豪雨	平成24年7月九州北部豪雨
	2017年7月5-6日	2012年7月14日
最大1時間降水量（地点名）	129.5mm（朝倉）	91.5mm（黒木）
最大3時間降水量（地点名）	261.0mm（朝倉）	174.5mm（黒木）
最大24時間降水量（地点名）	545.5mm（朝倉）	486.0mm（黒木）
高度500mの水蒸気量	18.5g/kg	19.5g/kg
酵素500mの気温（海上）	23℃	24℃
500hPa（5500m付近）の気温	-7~-6℃	-2~-3℃
CAPE（950hPa）	1800J/kg	1100J/kg
大雨最盛期の雲頂高度	約17m	約14m

出典：気象庁

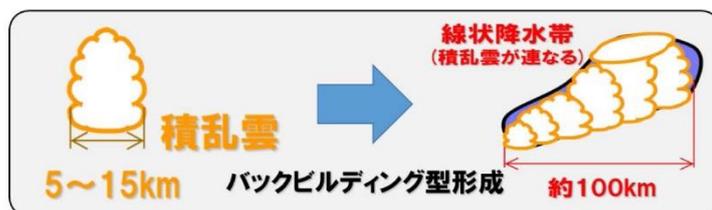
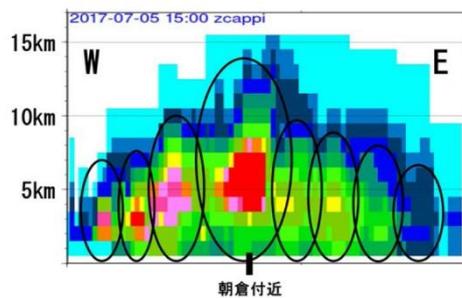
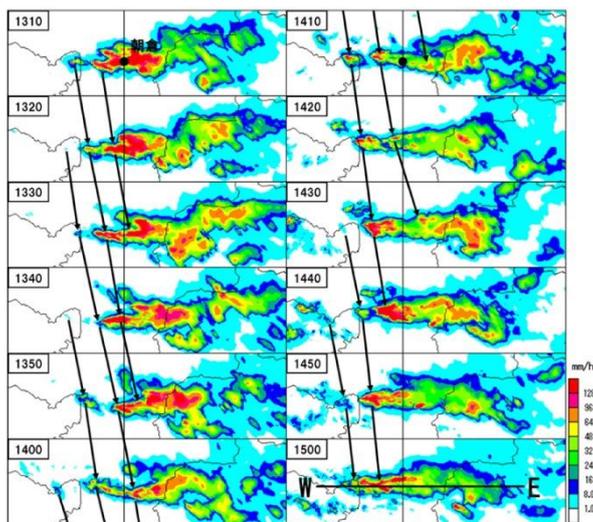
- ・対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって、暖かく非常に湿った空気が流れ込んだ影響等により、積乱雲が発達した「線状降水帯」が形成・維持され、同じ場所に猛烈な雨を継続して降らせたことから、記録的な大雨となった。



▲今回の大雨の発生要因の概念図

出典：気象庁

- ・福岡県朝倉市・大分県日田市付近に大雨をもたらした「線状降水帯」は、脊振山地東側で積乱雲が繰り返し発生し、猛烈に発達しながら東へ移動することで形成・維持された。線状降水帯のこのような形成過程を「バックビルディング型形成」と呼ぶ。



出典：気象庁

- ・梅雨前線の活発な活動により、九州北部の3水系（遠賀川、筑後川、山国川）において氾濫危険水位を超える洪水が発生し、3つの観測所で観測史上最高水位を更新した。

■ 氾濫危険水位の状況

水位	水系名	河川名	観測所名	今回最高水位(m)		観測史上最高水位	H29.7洪水
氾濫危険水位超過	遠賀川	彦山川	添田(そえだ)	5.68	7月5日 17:40	3.59(H17.9.6)※H24は欠測	<u>溢水発生</u>
	筑後川	花月川	花月(かげつ)	4.50	7月5日 19:50	4.37(H24.7.14)	<u>溢水発生</u>
	筑後川	筑後川	荒瀬(あらせ)	7.23	7月5日 21:10	7.35(H24.7.14)	
	筑後川	筑後川	片ノ瀬(かたのせ)	10.36	7月5日 22:20	10.07(H24.7.14)	
	筑後川	筑後川	杖立(つえたて)	6.74	7月5日 24:00	9.36(H2.7.2)	
	山国川	山国川	柿坂(かきさか)	6.89	7月5日 20:50	8.41(H24.7.14)	<u>溢水発生</u>



出典：国土交通省

- ・建物被害は、全壊323棟、半壊1,104棟、一部損壊44棟、床上浸水180棟、床下浸水1,470棟、被災額は約2,241億円に達した。被災額は平成24年7月九州北部豪雨の約4倍である。

■平成29年九州北部豪雨災害の人的被害と住家被害（消防庁 平成30年1月16日、第74報参照）

		人的被害（人）		住家被害（棟）（県合計）				
		死者	行方不明者	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水
福岡県	朝倉市	33	2	274	830	39	22	587
	東峰村	3	—					
大分県	日田市	2	—	49	274	5	158	883
計		39	2	323	1,104	44	180	1,470

■被災金額の概要（福岡県8月20日、大分県8月22日時点、国の被災含まず）

	福岡県（億円程度）	大分県（億円）	計（億円）
道路施設	375	40	415
河川施設	545	144	689
砂防施設	161	14	175
農業	389	60	449
森林・林業	302	31	333
商工	106	7	113
教育施設・文化財	42	1	43
その他	21	3	24
計	1,941	300	2,241

【参考：平成24年7月九州北部豪雨の概要】

- ・平成24年7月11日から14日にかけて、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県を中心とする九州北部において、梅雨前線による大雨により、河川のはん濫や土石流が発生し、死者30人、行方不明者2人、住家被害13,263棟（損壊769棟、浸水12,494棟）、被災額は約520億円の甚大な被害をもたらした。

【平成29年7月九州北部豪雨の被災概要】

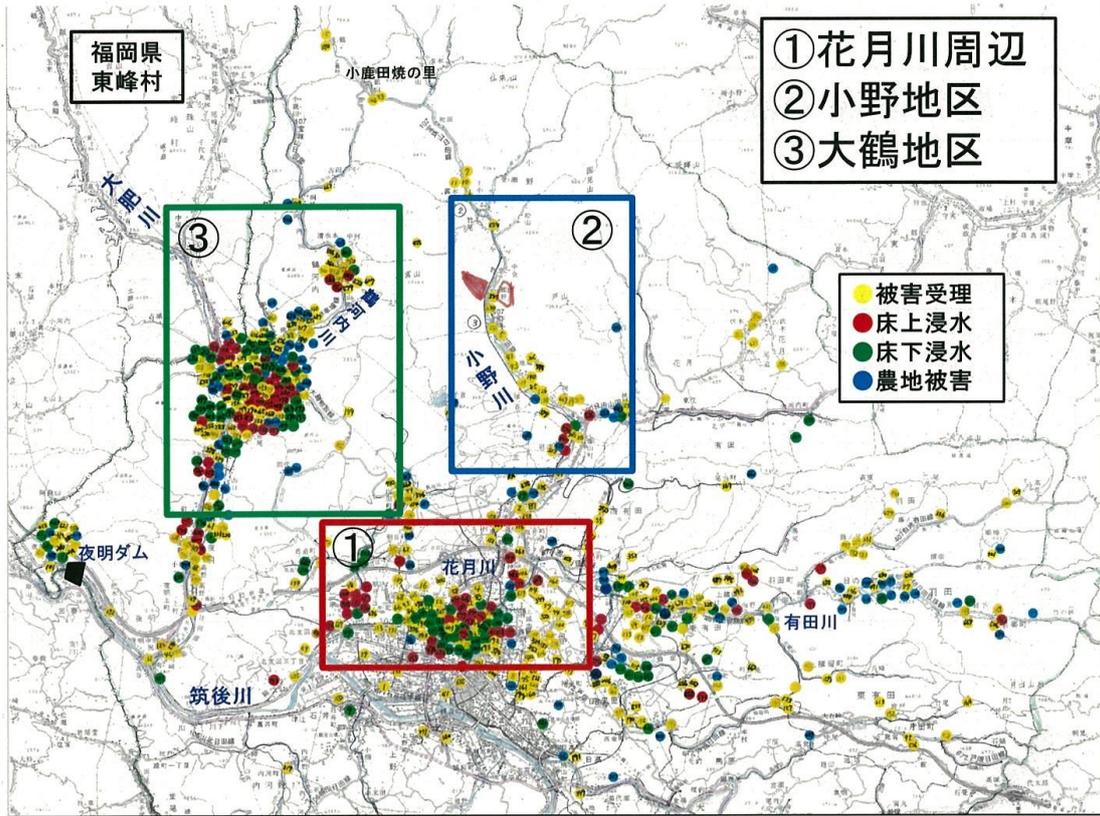
- ・土砂災害等の分布状況を下図に示す。
- ・平成29年7月九州北部豪雨災害では、山腹崩壊が多数発生したことが、特徴である。
- ・局地的な大雨と山腹崩壊により、大量の土砂と流木が下流に流され、家屋や橋等が損壊した。



▲土砂災害等の分布状況図

出典：国土地理院HPに河川名等を加筆

■被災状況



① 花月川 浸水エリア



出典：日田市土木建築部



出典：日田市土木建築部



豆田の内水被害

平成29年7月5日撮影

花月川の被災状況

中津方面



花月川右岸6k400付近



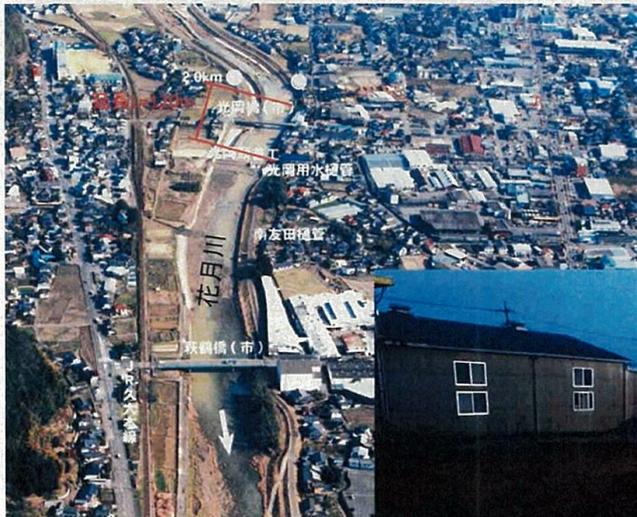
出典：日田市土木建築部

緊急復旧の状況

花月川 右岸 髪永井堰付近



花月川の被災状況



花月川左岸1k800付近



出典：日田市土木建築部

緊急復旧の状況

花月川 右岸 吹上地区



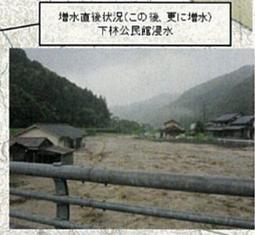
花月川 土砂堆積の状況



② 小野地区

小野川(県河川)被災状況

山腹崩壊による河川塞ぎ止め
(土砂ダム)



小野川河口付近 (花月川合流部の手前)

平成29年7月5日撮影



出典：日田市土木建築部

小野地区(大規模山腹崩壊) 小野川中流

1回目崩壊 7月5日夜から7月6日未明
2回目崩壊 7月6日 9時45分



小野川中流部 小野地区(増水の状況)

平成29年7月5日撮影



出典：日田市土木建築部

小野川中流 小野地区(洪水の状況)

平成29年7月6日早朝撮影



小野地区(土砂ダム) 全景 下流に向かって撮影



出典：日田市土木建築部

小野地区(土砂ダム) 下流側を撮影



小野地区(土砂ダム) 上流側を撮影



小野地区(土砂ダムの下流側)



小野地区の応急復旧の状況(仮設道路、仮排水路)

平成29年8月3日撮影
(8月6日 12時開通)



出典:日田市土木建築部

榑野地区の応急復旧の状況(仮設道路、仮排水路)

平成29年11月1日撮影
(8月6日 12時開通)



小野地区の砂防堰堤の状況

平成29年11月1日撮影



小野地区の砂防堰堤上流側の状況

平成29年11月1日撮影



小野地区の砂防堰堤下流側の状況

平成29年11月1日撮影



出典：日田市土木建築部

小野川から県道へ流れ込んだ土砂堆積の状況



県道宝珠山日田線

小野川と県道の被災状況



県道宝珠山日田線

③-1 大鶴地区(鶴河内川)

鶴河内川(県河川)被災状況



鶴河内川(山腹崩壊)

(大鶴地区(上宮町)の被災状況)



鶴河内川(家屋被災)



鶴河内川(市道橋梁の流木)





出典：日田市土木建築部

中崎柚ノ木川(スリットダム)の状況 土砂・流木の捕捉



出典:大分県日田土木事務所

中崎柚ノ木川(スリットダム)の状況 土砂・流木の捕捉



出典:大分県日田土木事務所

出典:日田市土木建築部



古田川(鶴河内川支流) (山腹崩壊)



③-2 大鶴地区(大肥川(県河川))被災状況



出典：日田市土木建築部



出典：日田市土木建築部

大肥川(大鶴地区) 堤防の応急復旧状況

平成29年11月1日撮影



大肥川 (市道の橋梁流出)



出典: 日田市土木建築部



出典：日田市土木建築部



出典：日田市土木建築部

九州北部豪雨災害 山腹崩壊が多数発生



九州北部豪雨災害 赤谷川被災状況



九州北部豪雨災害 北川被災状況



九州北部豪雨災害 奈良ヶ谷川被災状況

